



(拵)

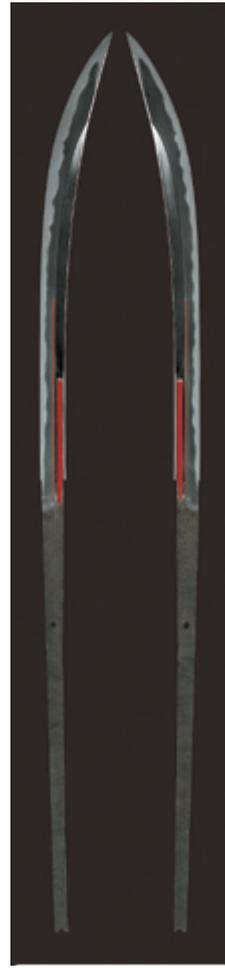


(刀身)

(18) 刀 銘 備前国長船春光 附 焦茶塗半太刀拵



(12) 薙刀 銘 九州肥後同田貫又八ノ五十ノ内三六



(11) 薙刀 銘 (裏) 肥州住藤原清國作 四十ノ内廿一



(鐔)



(銘部分拡大)



(銘部分拡大)

【作品画像】

(1) 太刀 銘 国時



(銘部分拡大)

(5) 刀 銘 九州肥後同田貫兵部 / 慶長三年八月日



(銘部分拡大)

(6) 刀 銘 肥後同田貫宗廣造 / 天保十二年十一月日



(銘部分拡大)

番号	資料ID	種別	銘	時代	研磨	所蔵	備考
〔未研磨〕							
22	62633	刀	(表)河内守源永園	江戸時代前～中期	未	当館蔵	
23	65838	刀	(表)肥州菊池住惟義 (裏)以菊池川砂鉄鍛之	昭和時代	未	当館蔵	
24	99122	刀	(裏)金剛兵衛源盛高(花押)菊池川砂鉄倭吹造	安土桃山時代～江戸時代前期	未	当館蔵 (蟹江コレクション)	
25	58726	脇差	(表)十九	江戸時代後期	未	当館蔵	同田貫派か 熊本城備えの番号が入る
26	101833	脇差	(表)東肥国直宗 (裏)文政九年八月(以下、判読不明)	文政9年(1826)	未	当館蔵	
27	65023	短刀	無銘	南北朝時代	未	当館蔵	菊池槍
28	100775	短刀	(表)国綱	南北朝時代～室町時代	未	当館蔵	肥州菊池住国綱カ
29	99117	短刀	無銘	江戸時代後期	未	当館蔵	延寿園秀カ
30	93485	薙刀	(表)九州肥後同田貫上野介	安土桃山時代	未	当館蔵	
31	65195	薙刀	(表)九州肥後同田貫次兵衛	安土桃山時代	未	当館蔵	
32	59639	薙刀	(表)口州肥後□□□□□□	安土桃山時代	未	当館蔵	同田貫派カ
33	61873	薙刀	(表)菊池住下坂徳行 (裏)文政十三年二月日	文政13年(1830)	未	当館蔵	
34	61882	薙刀	(表)東肥熊府住延寿宣勝七十才作 (裏)慶応元年八月	慶応元年(1865)	未	当館蔵	
35	64569	薙刀	(表)延寿宣勝作 (裏)安政二年正月日	安政2年(1855)	未	当館蔵	
36	65193	大身槍	無銘	安土桃山時代	未	当館蔵	同田貫派カ
37	59643	大身槍	(表)貞則作	室町時代前期	未	当館蔵	延寿派
38	58727	大身槍	(表)九州肥□□以下不明	安土桃山時代	未	当館蔵	同田貫派
39	65185	大身槍	(表)九州肥後同田貫口□□次兵衛 (裏)二十	安土桃山時代	未	当館蔵	熊本城備えの番号が入る
40	65191	大身槍	無銘	安土桃山時代～江戸時代初期	未	当館蔵	同田貫派カ
41	65192	大身槍	(表)九州肥後同田貫次兵衛	室町時代末期～安土桃山時代	未	当館蔵	
42	94296	大身槍	(表)九州肥後同田貫(以下、判読不明)	安土桃山時代	未	当館蔵	
43	65213	槍	(表)東肥熊府住延寿宣勝七十一才作 (裏)慶応二年正月日	慶応2年(1866)	未	当館蔵	
44	61880	槍	(表)延寿宣勝作 (裏)嘉永七年正月日	嘉永7年(1854)	未	当館蔵	
45	61884	槍	(表)肥島隈本住	江戸時代	未	当館蔵	
46	61876	槍	(表)延寿 (裏)宣勝	江戸時代後期	未	当館蔵	
47	65206	槍	(表)延寿宣利作 (裏)安政三年八月日	安政3年(1856)	未	熊本城顕彰会蔵(当館寄託)	延寿宣勝の子。明治23年(1890)に65歳で没。
48	65189	槍	(表)延寿宣勝作 (裏)安政三年二月日	安政3年(1856)	未	当館蔵	
49	99119	槍	(表)延寿宣勝作 (裏)安政三年八月日	安政3年(1856)	未	当館蔵 (蟹江コレクション)	
50	65186	槍	(表)延寿宣勝作 (裏)安政五年二月日	安政5年(1858)	未	当館蔵	
51	99118	槍	(表)延寿宣勝作 (裏)安政五年二月日	安政5年(1858)	未	当館蔵 (蟹江コレクション)	
52	93486	槍	(表)東肥熊府住武口善衛門尉延寿宣勝六十五才之作 ※明治4年(1871)に76歳で没しているため。	文久元年(1861)か ※明治4年(1871)に76歳で没しているため。	未	当館蔵	
53	61879	槍	(表)延寿宣勝作 (裏)元治元年八月	元治元年(1864)	未	当館蔵	
54	93481	槍	(表)肥後園住宣勝作	江戸時代後期	未	当館蔵	
55	96175	槍	(表)勝 (裏)宣	江戸時代後期	未	当館蔵	
56	65832	十文字槍	(表)越前守国次	江戸時代初期～中期	未	当館蔵	伝織田信長より拝領。 越前下坂鍛冶。後、寛文頃に肥後に移る。
57	59633	十文字槍	(表)延寿宣勝作 (裏)安政二年八月日	安政2年(1855)	未	当館蔵	
58	65834	十文字槍	(表)延寿宣勝作 (裏)文久三年八月日	文久3年(1863)	未	当館蔵	
59	62795	袋槍	(表)宣勝	江戸時代後期	未	当館蔵	

[表 二]

番号	資料ID	種別	銘	時代	目釘孔	全長/刃長/反り (単位:cm)	研磨	所蔵	備考
(研磨済)									
1	59640	太刀	(表)国時	鎌倉時代末期	1	全長 89.1 刃長 67.5 反り 1.9	済	当館蔵	延寿派 黒銅色塗刀拵(江戸時代後期)が附属する。 紀州徳川家伝来と伝わる。
2	59641	刀	無銘	鎌倉時代中期	2	全長 81.0 刃長 68.0 反り 2.2	済	当館蔵	伝・米国行
3	61870	刀	無銘	鎌倉時代末期	3	全長 83.6 刃長 65.0 反り 1.3	済	当館蔵	延寿派
4	58927	刀	無銘	室町時代か	3	全長 88.0 刃長 69.3 反り 1.8	済	当館蔵	延寿派
5	59637	刀	(表)九州肥後同田貫兵部 (裏)慶長三年八月日	慶長3年(1598)	2	全長 92.3 刃長 71.5 反り 1.1	済	当館蔵	
6	66082	刀	(表)肥後同田貫宗廣達 (裏)天保十二年十一月日	天保12年(1841)	1	全長 95.0 刃長 75.4 反り 2.3	済	当館蔵	
7	61871	刀	(表)肥後同田貫宗廣 (裏)嘉永三年三月日	嘉永3年(1850)	1	全長 86.8 刃長 69.1 反り 1.9	済	当館蔵	
8	61891	脇差	(表)肥後同田貫宗廣 (裏)安政五年正月日	安政5年(1858)	1	全長 48.0 刃長 34.7 反り 0.8	済	当館蔵	
9	62636	短刀	無銘	南北朝時代	1	全長 31.6 刃長 21.2 先伏せる	済	当館蔵	菊地槍
10	65208	薙刀	(表)九州肥後同田貫次兵衛	安土桃山時代	2	全長 90.8 刃長 50.7 反り 2.4	済	当館蔵	
11	61888	薙刀	(裏)肥州住藤原清國作 / 四十ノ内廿一	江戸時代初期か	1.5	全長 104.4 刃長 52.1 反り 2.3	済	当館蔵	熊本城備えの番号が入る
12	65209	薙刀	(表)九州肥後同田貫又八 (裏)五十ノ内三六	安土桃山時代	2	全長 104.2 刃長 51.2 反り 3.0	済	当館蔵	熊本城備えの番号が入る
13	65212	薙刀	(表)九州肥後同田貫次兵衛 / 六	室町時代末期	2	全長 109.6 刃長 50.5 反り 2.2	済	当館蔵	熊本城備えの番号が入る
14	65713	大身槍	無銘	室町時代後期	2	全長 236.3 刃長 107.0 反り -	済	当館蔵	同田貫派 文祿・慶長の役の折、家臣の武功を称えた加藤清正 から拝領したものと伝わる。
15	61886	大身槍	無銘	安土桃山時代	1	全長 144.2 刃長 80.1 反り -	済	熊本城顕彰会蔵(当館寄託)	同田貫派
16	61887	大身槍	(表)九州肥後同田貫源左衛門	安土桃山時代	2	全長 156.4 刃長 73.4 反り -	済	当館蔵	
17	65196	片鎌槍	(表)熊本住延寿宣繁作 (裏)昭和五年八月吉日	昭和5年(1930)	1	全長 83.6 刃長 30.3 反り -	済	当館蔵	
(熊本以外の刀工の作だが、実歴が肥後と関わる刀剣)									
18	65660	刀	(表)備前国長船香光	室町時代末期	2	全長 87.1 刃長 68.1 反り 1.7	済	当館蔵	刀身は、「細川忠興閣ヶ原御陣刀」と伝わる。拵は江 戸時代初期～中期、細川判部家旧蔵品。
19	65661	脇差	無銘	室町時代末期	2	全長 66.6 刃長 51.4 反り 0.8	済	当館蔵	
20	61872	太刀	(表)伯耆守平朝臣正幸 (裏)為齋藤権左衛之 寛政六年寅戌月	寛政6年(1794)	2	全長 96.6 刃長 75.2 反り 1.9	済	近津鹿島神社蔵(当館寄託)	
21	62621	刀	(表)藤原貞行	江戸時代前期	1	全長 88.7 刃長 68.8 反り 1.1	済	味噌天神蔵(当館寄託)	

[表 一]

おわりに

当館が開館して七〇年余が経過し、全分野の収蔵品は一五万点を超える。特に熊本地震以後は寄贈の相談件数が増加し、刀剣類の寄贈相談や問い合わせも多い。

収蔵数が増加する一方、現時点においても未研磨の刀剣類は多く、長期的な視野で修繕計画を遂行していく必要がある。今後も調査・整理作業を継続し、少しでも多く当館が収蔵する刀剣類の公開機会を設けたいと考えている。

〈謝辞〉

当館の収蔵刀剣調査には、故・稲田和彦氏、公益財団法人 日本美術刀剣保存協会大阪支部員の皆さま、正海刀剣研磨処の皆さまに多大なご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

【凡例】

一、本稿では、基本的に刀身が熊本に係る刀剣類についてのみ掲載した。刀身は熊本と関連がないものの、肥後拵や肥後象嵌など刀装具のみ熊本との関連性がある作品については、現在も調査中であるため、一部を除いて掲載していない。

一、細川刑部家旧蔵品、近津鹿島神社奉納刀（当館寄託）、味噌天神奉納刀（当館寄託）については、刀身は熊本で生産されたものではないが、当地との所縁が深いことから本稿に掲載した。

一、一覧には、太刀、刀、脇差、短刀、薙刀、大身槍、槍、その他の槍（十文字槍、袋槍など）の順で記載した。

一、研磨済の刀剣類については、種別、銘記、時代、法量（cm）、所蔵のほか関連する情報を備考に記載し、一部の作品については画像を掲載した。

一、未研磨の刀剣類については、種別、銘記、時代のみを記載した。関連する情報がある場合は、備考に記載した。

一、銘文のうち、判読できない文字は□で表記した。

一、掲載した作品画像は全て当館が株式会社テレビせとうちクリエイトに委託して撮影したもので、著作権は当館に帰属する。

〈資料紹介〉

熊本博物館収蔵の熊本関係刀剣類について

竹原 明理

はじめに

熊本博物館（以下、当館）では、一四〇口以上の刀剣類を収蔵している（二〇二四年三月三十一日現在）。拵を含めるとその数は一五〇を超えているが、実際にどのような作品が当館に収蔵されているかはあまり知られていない。本稿は、これまでに調査・整理が完了した収蔵刀剣類のうち、近年問い合わせや活用が増えた延寿派や同田貫派など、刀身が熊本に關係する刀剣類を中心に紹介する。

一、当館における刀剣の展示

近年は、刀剣への関心がこれまで以上に幅広い世代で高まり、博物館や美術館などで刀剣を鑑賞する機会も増加した。熊本では、特に延寿派や同田貫派など当地で生産されたもののみならず、加藤氏や細川氏、松井氏などにかかわる刀剣類も非常に人気がある。

当館においては、平成一八年（二〇〇六年）に開催した特別展「刀剣―その美と肥後の歴史との関わり―」（会期：二月一八日～三月二一日、図録なし）を除き、常設展でも刀剣類を展示する機会はほぼなかった。平成三〇年（二〇一八年）のリニューアルオープン以降は、一階常設展示室において一～二口を定期的に展示替えして公開している。幸いSNSや書籍掲載等の効果もあり、当館にも刀剣類が収蔵されているという情報が少しずつ認知されつつあると感じている。

二、刀剣類調査の概要

当館は、平成二七・二八年度（二〇一五・二〇一六年度）の二カ年において、故・稲田和彦氏（京都国立博物館名誉館員）をはじめ、公益財団法人 日本美術刀剣保存協会大阪支部員の皆さまの協力を得て、収蔵刀剣類の調査を実施した。名称、作者名、法量、作風、製作年代等の解説のほか、押形も作成いただいた。本調査以後も多数の刀剣類をご寄贈いただいております。漸次整理作業を行っている。本稿に掲載した各作品の情報は、これらの調査に基づくものである。

調査に加えて、作品の姿や現状記録のための作品画像を残さねばならない。刀剣の撮影は専門的で高度な技術が求められるため、当館では令和二年度（二〇二〇年度）から、刀剣類の高精細スキャン撮影を外部に委託し、年に数口ずつ実施している。

三、当館収蔵の熊本関係刀剣類の概要

次頁以降掲載の一覧表のとおり、現在、当館では全部で五九口の熊本関係刀剣類を収蔵している。うち、二一口は研磨済【表一】、三八口は未研磨である【表二】。平成七年（一九九五年）に「接收刀剣類の処理に關する法律」が成立し、戦後の占領下で米軍に接收されていたいわゆる「赤羽刀」が全国の公立館等に無償譲与されたが、残念ながら当館では収蔵していない。また、現時点で資料購入予算はついていないため、当館に収蔵されている刀剣類は、全て個人や団体からの寄贈・寄託によるものである。

当館が収蔵する刀剣類の約半数が延寿派や同田貫派といった熊本ゆかりのものである。兵部や又八、次兵衛など同田貫派隆盛期の作品があるが、これらの中には熊本城の備えの武器として管理されていたと考えられる数字が確認できるものもある。ほかに宗広や宣勝といった幕末期の作品があり、特に槍類が多いのが特徴といえる。